

僕を認めてくれる周りの友達

中 一

僕は父に似て無口で大人しい性格で、自分から友達に話しかけることはほとんどありません。なぜあまり話さないのか今まで深く考えたことはなかったけれど、この機会によく考えてみました。きっと僕は、人がどう思うとか、人にどう思われちゃうのかといったことを気にせず、ただ楽な気持ちで、無理をしていないのだと思います。マイペースなのかもしれません。それがよいことか悪いことかは分かりませんが、決して人によい印象を与えることはないと思います。僕は気にしていませんが、無表情と言われることもあるし、そのせいで自分の気持ちが相手に伝わらず、誤解をされてしまっていることもあるかもしれません。

低学年のころ、授業参観など母が学校に行く度に、同じクラスの友達から「なんでAくんはしゃべらないの」とよく聞かれたそうです。必ずと言っていいほどその質問をされるので、母は僕が友達とうまくやれているのかすごく心配していま

した。

そんな僕を「もしかしたら話す能力はあっても学校などでは話すことができなくなる『場面緘黙症』ではないか」と母は不安に思い、学校の相談室に一年間通った時期もありました。通ってみた感じたことは、何より僕が楽であって辛くないのならそのままの僕でいい、大事なことは自分自身がどうかということでした。そして、母も

「無理をせずに僕は僕らしく過ごしてほしい」と言ってくれました。

中学年になると勉強や色々なことが難しくなってきました。特に字を丁寧に書くように心がけられました。今まで選ばれたことのなかった硬筆展で、金賞を受賞することができました。他にも毎日の朝マラソンを怠けることなく頑張った結果、陸上競技大会の代表選手にまで選ばれました。その努力を先生や友達に認めてくれたことで、自分に自信がもてるようになりました。すると、僕があまり話さなくても、笑わなくても、周りの皆はそんなことごくほめてくれます。とてもうれしいし、もつと

頑張ろうという気持ちになります。

そして、僕が皆から学んだことがあります。人のよいところを大切にするといいことです。人には短所があつて当然です。けれど大切なのは、短所を責めるのではなく、よいところを認め、大事にするということだと思います。そのことを僕は周りの友達から教えてもらいました。

中学校に入つて、他の小学校からたくさんの方が集まってくるので不安もありました。「こんな僕を認めてもらえるだろうか、不愉快に思う人もいるのではないだろうか」そう考えることもありましたが、僕には、僕のよいところを知ってくれているたくさんさんの友達がそばにいますので、とても心強いです。僕のことを大事に思ってくれる友達から学んだように、新しい仲間のよいところをたくさん見て、敬い、大切な友達を増やしていきたいです。